

報道関係者 各位

2025 年 1 月 24 日

**公開講演会「不安の時代——若き人びとの心のゆくえ」****2025 年 3 月 21 日（金）オーバルホール（大阪）にて開催！**

国立民族学博物館（大阪府吹田市千里万博公園10-1）では、みんぱく公開講演会「不安の時代——若き人びとの心のゆくえ」を2025年3月21日（金）にオーバルホール（大阪市北区梅田3-4-5毎日新聞大阪本社ビルB1）にて開催します。

**【趣旨】**

21世紀のこんにち、世界中の若年層が精神的不安を抱えた経験をもち、毎日を生きているといわれます。人生の過渡期にある人びとが不安を抱くこと自体は、歴史的に珍しいことではありません。

しかし、文化的境界をまたいで人びとや商品、情報が移動し、新しい価値と旧来の価値が相克する現在、個人がもつ欲求は社会的期待とかならずしも一致せず、これまでにない不安が出現しています。また、隣人どうしで価値観をすり合わせにくくなっていることも、不安を大きなものにしていきます。

こうした不安はうつ病や不安障害、ストレス関連症状など医学の語彙で語られるいっぽう、文化的にそれを解釈する枠組みもたえず刷新されてきました。本企画では、若年層をとりまくグローバルな現状にも目を配りつつ、不安に対するローカルな実践を紹介し、不安をめぐるあらたな視点とアプローチについて討議します。

主催  国立民族学博物館  毎日新聞

**【登壇者】****[講演1] 20世紀前半の東京の若者と不安—歴史と国際比較**

鈴木 晃仁（東京大学・教授）

**[講演2] 社会格差が引き起こすブラジルの若者の不安**

奥田 若菜（神田外語大学・教授）

**[講演3] 「生きづらさ」を超えて—セネガルの若者たちの事例から**

阿毛 香絵（京都大学・助教）

**[講演4] 韓国の若い世代の鬱火**

諸 昭喜（国立民族学博物館・准教授）

**[ディスカッション]**

鈴木 晃仁×奥田 若菜×阿毛 香絵×諸 昭喜

司会：飯田 卓（国立民族学博物館・教授）

**【公開講演会とは】**

先端的な研究活動を取りあげ、その成果を社会に積極的に還元するとともに、文化人類学・民族学を通じての異文化理解と、広く本館が学術研究機関であることの認識を一般市民に深めてもらうことを目的として、東京と大阪において実施しています。

今年度は、2024年11月8日(金)に日経ホール(東京)にて「民族×アートの現在—美をめぐる政治のゆくえ」を実施しました。

**【プログラム】**

17:30	開 場	
18:30 - 18:35	開会挨拶	木戸 哲（毎日新聞社大阪本社編集局長）
18:35 - 18:40	挨 拶	吉田 憲司（国立民族学博物館長）
	趣旨説明	
18:40 - 19:00	講 演 1	鈴木 晃仁（東京大学・教授） 「20世紀前半の東京の若者と不安—歴史と国際比較」
19:00 - 19:20	講 演 2	奥田 若菜（神田外語大学・教授） 「社会格差が引き起こすブラジルの若者の不安」
19:20 - 19:40	講 演 3	阿毛 香絵（京都大学・助教） 「『生きづらさ』を超えて—セネガルの若者たちの事例から」
19:40 - 20:00	講 演 4	諸 昭喜（国立民族学博物館・准教授） 「韓国の若い世代の鬱火」
20:00 - 20:20	休 憩	
20:20 - 21:00	ディスカッション	鈴木 晃仁×奥田 若菜×阿毛 香絵×諸 昭喜 司会：飯田 卓(国立民族学博物館・教授)
21:00	終 了	

## 【登壇者プロフィール】



### 鈴木 晃仁（東京大学・教授）

1986年に東京大学教養学科を卒業し、1992年にロンドン大学・ウェルカム医学史研究所にてPhDを取得。1997年より慶應義塾大学経済学部で歴史学を、2021年より東京大学人文社会研究科で死生学応用倫理を教える。専門は医学史で、特にイギリスと日本の精神医療と感染症の歴史を研究している。著作は Madness at Home(2006), Reforming Public Health in Occupied Japan, 1945-52(2012、共著)。義塾賞(2007), The Carlson Award, Cornell University Medical College (2014)。



### 奥田 若菜（神田外語大学・教授）

社会格差の視点からブラジルで調査研究を行っている。近年では、中絶論争や感染症に関する研究に取り組んでいる。著作に『貧困と連帯の人類学：ブラジルの路上市場における一方的贈与』（2017年、春風社）、『格差社会考：ブラジルの貧困問題から考える公正な社会』（2021年、神田外語大学出版局）、共訳書にデボラ・ジニス著『ジカ熱』（2019年、水声社）などがある。



### 阿毛 香絵（京都大学・助教）

京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科助教。大学学部2年生の時にセネガルの首都ダカールのシェイク・アンタ・ジョップ大学に留学し、以後西アフリカのイスラームと政治、若者の生き方に関心を持って研究してきた。2019年にフランス国立社会科学高等研究院(EHESS)で博士号（文化人類学）を取得。近年の論文に「現代社会における宗教性に関するアフリカ・アジア比較研究の可能性」（2024）、「Emergent Use of Visual Media in Young Muslim Studies」（2024）などがある。



### 諸 昭喜（国立民族学博物館・准教授）

韓国の産後の病を中心に病の変遷に関する研究を進めている。最近では若者の鬱火に関する研究に力を注いでいる。著作に『産後の〈風〉：病いの語りからみる韓国社会とジェンダー』（2024年、春風社）、共著『バングラデシュ農村を生きる』（2021年、風響社）、共訳書に北中淳子著『우울증은 어떻게 병이 되었나（うつはどのように病になったか）』（2023、April Books）などがある。

**吉田 憲司（国立民族学博物館長）**

国立民族学博物館の第6代館長。2017年4月から現職。アフリカを中心とした儀礼や仮面の研究を進めるとともに、ミュージアム（博物館・美術館）における文化の表象のあり方を研究している。主な著書に『仮面の世界をさぐる アフリカとミュージアムの往還』、『文化の「発見」』、『宗教の始原を求めて』など。

**飯田 卓（国立民族学博物館・教授）**

専門は、生態人類学ならびに文化遺産学。生態系を全体的に把握する生態学や、文化現象を全体的に把握する文化人類学のアプローチを手本として、文化遺産の保護継承の分野であらたなアプローチを提示しようと試みている。主な著書に『海を生きる技術と知識の民族誌』（2008年、世界思想社）、『身をもって知る技法』（2014年、臨川書店）などがある。

**【開催概要】**

講演名	公開講演会「不安の時代―若き人びとの心のゆくえ」
日時	2025年3月21日(金) 18:30～21:00 (開場17:30)
会場	オーバルホール (大阪府大阪市北区梅田3-4-5 毎日新聞大阪本社ビルB1)
定員	480名 (事前申込み制/先着順/無料) ※手話通訳あり
ライブ中継	本講演は会場内のほか、WEBライブ中継 (事前申込み制/定員なし/無料) でも参加いただけます。
主催	国立民族学博物館、毎日新聞社

**【申込み方法】****申込方法**

会場へ参加ご希望の場合もライブ中継参加ご希望の場合も、下記公式サイト内にある申込フォーム画面に従って必要事項をご入力ください。

[https://www.minpaku.ac.jp/ai1ec\\_event/57171](https://www.minpaku.ac.jp/ai1ec_event/57171)

受付期間：2025年2月4日(火)受付開始予定

講演会	〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1 国立民族学博物館 研究協力課
お問合せ先	Tel:06-6878-8209 Mail: <a href="mailto:minpakukoenkai@minpaku.ac.jp">minpakukoenkai@minpaku.ac.jp</a>

[お問合せ] 国立民族学博物館 総務課 広報係  
Tel:06-6878-8560(直通) Fax:06-6875-0401 Mail: [koho@minpaku.ac.jp](mailto:koho@minpaku.ac.jp)  
プレス向けウェブサイト [www.minpaku.ac.jp/press](http://www.minpaku.ac.jp/press)